



## 怪僧・了海②

地域史研究者  
三善貞司

大飢饉に施米活動を施し

日蓮宗を罵倒する怪僧が福祉事業で崇められる

放浪の僧了海が大坂に立寄ったとき、大坂では浄土宗と日蓮宗が激しく対立していました。大坂は浄土宗・浄土真宗の地盤ですが、新興勢力の町人たちは好奇心が旺盛で、すぐ新しいものに目移りします。おまけに浄土宗はおとなしい。たちまち口達者な日蓮宗徒に言い負かされ、浄土宗徒はたじたじでした。

青年時代に日蓮宗徒から得意の論争を挑んだ天狗の鼻をへし折られた了海は大喜び、旗色の悪い浄土宗を助けてやろうと妙な義侠心をおこし、日蓮宗の誹謗中傷(デマをとばし、悪口で傷つけること)を始めたのです。

とりわけ宝永から正徳年間(1704~1716)にかけての彼の芝居がかった行動は、目を見張るものがありました。了海は弁舌だけではなく、人の顔色を読むのに天才的な才能を持っています。集まった人たちの顔色を見ただけで、今日の聴衆は何を望んでいるかがすぐ分かったそうです。すばやく説法する内容を変えて機嫌をとりますが、その内容は場当たりの無節操、とことん野次をとばし日蓮宗を罵倒します。何回となくくり返すうちに大衆心理が働いて、聴衆は痛快・爽快な気分になる。付和雷同(わけもわからず人の言動に賛成すること)する。今の言葉でいえば、マイルドコントロールされたのでしょうか。

そのうち催眠術にかけられたように、「医者がサジを投げた病人を、了海さまはたちどころに全快させた」「どこそこの婆さんは、了海さまが撫でただけで目が見えるようになった」「となりの爺さんはおさすりしてもらったら歩きだした」などのあやしげなうわさが、まことしやかに巷に流れます。たちまち狂信的な了海信者が増え、生き仏さまとあがめられる新興宗教の教祖にまつりあげられていきました。日蓮宗の尼寺「妙蓮庵」が了海に帰依(深く信仰しその力にすがること)して浄土宗に改宗したぐらいです。

了海の人気が異常に高まった正徳4年(1714)、天候不順から西国の農作物のできが悪く、大坂はひどい飢饉に襲われます。了海はただちに大掛かりな施米活動にのりだし、『摂陽奇観』に、「正徳4年11月15日から12月10日まで、了海は和光寺で白米2合ずつ施した。1日で20石に達するほど、多くの難民たちが押し寄せる。これがきつかけになって富裕な商家や米屋たちも、米銭を施している。この秋は米穀高騰し、米1石の代金230貫目、了海の施米は34万人にも及んだ」との内容が記されています。もちろん了海ひとりの力ではなく、了海の信者たちが喜捨したものも多いでしょうが、1人に2合ずつ、34万

人に施米したのが事実であれば、了海がカリスマ的な力を発揮したのは確かです。

こうして了海は、日蓮宗を罵倒する怪僧から、福祉事業に尽力する善行の僧侶としての評価を高めていきました。前号で紹介した了海の説法を背景とする近松門左衛門の名作浄瑠璃『心中宵庚申』は、享保7年(1722)4月竹本座初演ですから、この時代には門左衛門でさえ了海の慈善を認めていたことが分かります。

晩年了海は京に移り、真如堂や釈迦堂(清涼寺)などの有名な寺院で説法しては、喜捨を求めました。集まった浄財を由緒のある古寺の堂宇(建物)や塔の修復・改築に用いています。富松薩摩(京の劇作家)の「三井寺不動明王豊年護摩」という脚本にも、真如堂で説法する了海と、聴聞に行く多くの善男善女の姿が描かれています。日蓮宗の悪口を言ったなどは記しておりません。

享保4年(1719)1月、57歳没。亡くなった場所は嵯峨野(京都市右京区)の広沢池のほとりの小庵で、生活も質素、ひっそりと暮らしていたことが分かります。死ぬときのありさまは、「予知終焉瑞座念号安祥逝」あらかじめ臨終を知っていたようで、きちんと正座し念仏を唱えながら、やすらかに往生した」と記されており、前号で紹介した古書『武野俗談』にある「(死ぬときは)骸が六畳いっばいに広がり、頭は八つに分裂していた」というような、奇怪な死にかたではありませんでした。

和光寺(西区北堀江3丁目)に、了海の墓が現存します。無縫塔(6角または8角の台座の上に卵形の塔身をのせる石塔。別称卵塔)で、「照蓮社遍誉上人单阿了海和尚」と刻まれています。無縫塔は一般には禅僧の墓で、享保16年の建ですから、13回忌の供養だと思われまます。

余白ができたので和光寺境内のあみだ池にふれておきます。推古天皇の時代、百濟から贈られた仏像をめぐって物部氏と蘇我氏が戦争となり、物部氏が仏像をこのあみだ池に投げ込んだ、のちに信濃の本多善光が池に沈んでいた仏像を拾い、故郷にもち帰ってお祀りしたのが善光寺の起りだとの有名な伝説をとどめています。和光寺が創建されたのは江戸時代ですから単なる伝承ですが、今でも池前に「善光寺如来出現之靈地」碑が建っています。

了海(1662~1719)武州出身の僧。近松門左衛門の「心中宵庚申」にも登場。墓は和光寺(西区北堀江)に現存。